

再 開 発 担 当

六本木五丁目西地区の街づくりについて

六本木五丁目西地区の街づくりについて

1 計画地の位置・地区の概要

本地区は、補助線街路第4号線や環状第3号線などの幹線道路に面し、地下鉄六本木駅に近い交通利便性の高い約10.5haの地区です。

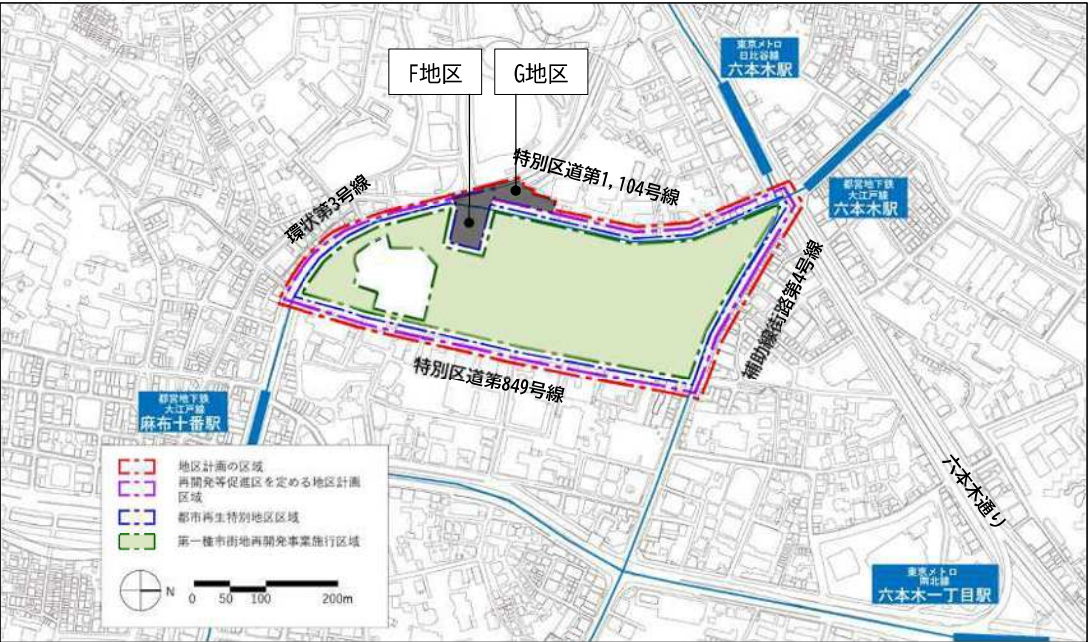
都市再生緊急整備地域における地域整備方針では、六本木地域に国際性豊かな交流ゾーンを形成することを目標としており、東京都のマスタープランでは、業務、商業、居住、教育、文化、国際交流などの多様な機能の集積や、文化会館や庭園などの資源をいかした市街地の更新を目指すとしています。

また、港区まちづくりマスタープランでは、六本木周辺を都市機能が集積する拠点に位置付け、整備方針として地下鉄駅などの交通結節機能の強化、文化性や国際性の豊かな商業・業務・交流機能の集積の促進、外国人を含めた多様な人々のニーズに対応した居住、文化、教育などの生活環境の整備が示されています。加えて、開発事業等が連担する地域においては、計画段階から完成後の維持管理等に至るまで、一体となってまちづくりを進めることが求められています。

一方、本地区内には、細街路や行止り道路が存在し、緊急輸送道路沿いに多くの旧耐震建物が残るとともに、土砂災害特別警戒区域が広く指定されるなど、防災面に課題があります。また、六本木交差点の混雑に伴う外苑東通りの左折車線の渋滞や、学校などに面する特別区道第849号線への通過交通の流入など、自動車交通の課題を抱えています。さらに、地下鉄駅構内の混雑やバリアフリー動線の不足に加え、地下鉄の出入口やバス停、タクシー乗り場が点在しているなど、駅前拠点としての交通利便性が不十分です。

これらの上位計画や地区の課題を踏まえ、駅まち広場や交通結節広場、道路ネットワーク、地区内のバリアフリー動線など、六本木に求められる新たな拠点形成に必要な都市基盤を整備し、合理的かつ健全な土地利用と多様な都市機能を集積するとともに、隣接する複合開発と連携の上、地区内外のにぎわいの連続性を強化する結節点を形成することで、魅力的で活力あふれる複合市街地を形成します。

■位置図



出典：国土地理院ウェブサイト (https://www.gsi.go.jp/) ※基盤地図情報を加工して作成

2 まちづくりの目標と取組内容

1 新たな拠点を支える都市基盤の整備

- (1) まちに開かれた交通結節点の整備
- (2) 駅とまち、まちとまちをつなぐ、安全で快適なネットワークの形成
- (3) 六本木交差点周辺の道路ネットワークの再編

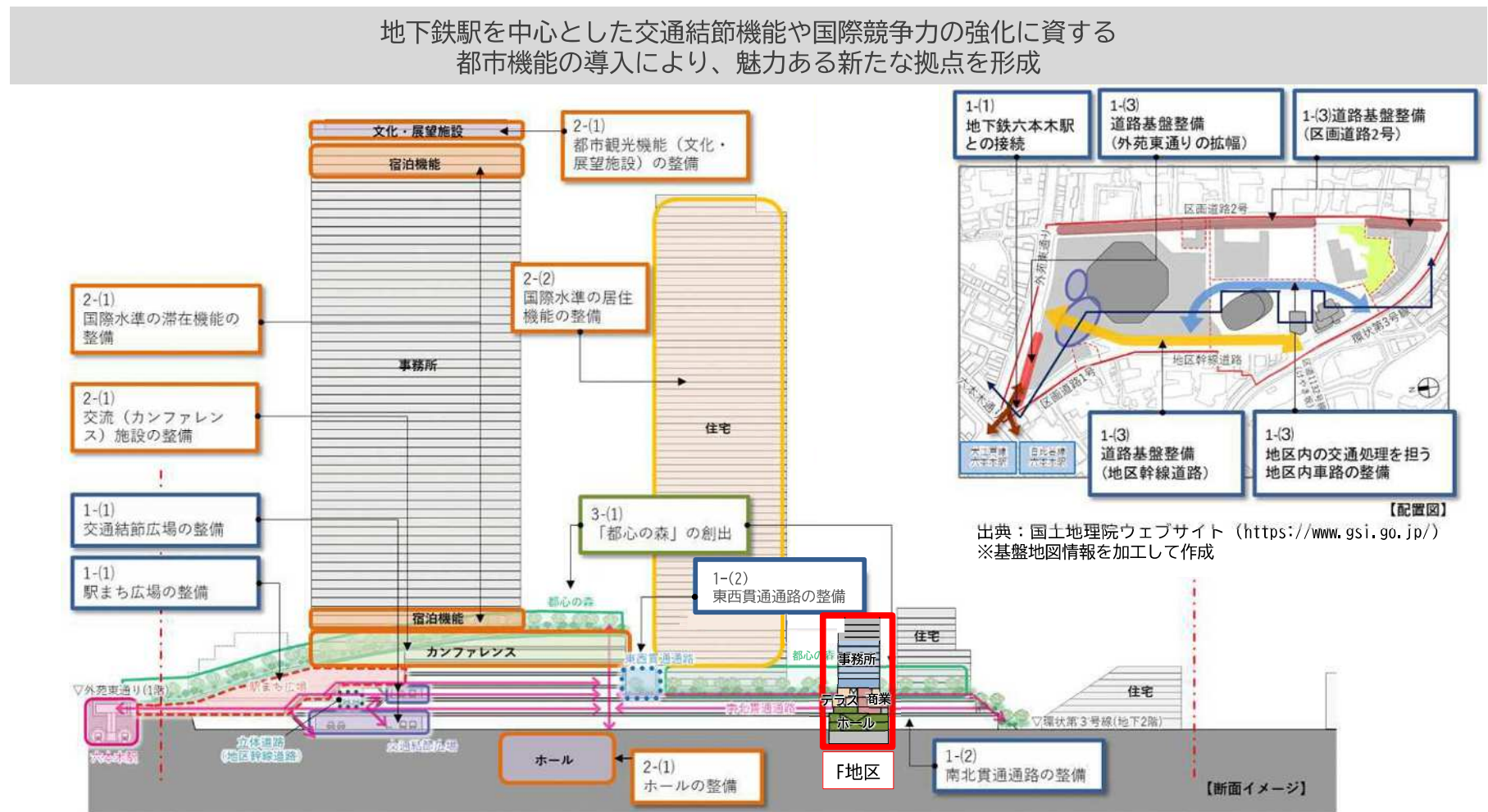
2 国際競争力強化に資する都市機能の導入

- (1) 六本木の特性を生かした文化・交流 (M I C E) ・宿泊機能等の整備
- (2) 外国人就業者、居住者に対応する国際水準の居住機能の整備

3 環境への取組と災害対応力強化

- (1) 「都心の森」の創出
- (2) 地域の災害対応力の強化に向けた取組
- (3) 環境負荷低減に向けた取組

3 整備イメージ



出典：国土地理院ウェブサイト (https://www.gsi.go.jp/) ※基盤地図情報を加工して作成

4 これまでの主な経緯

平成18年10月 (2006年10月)
鳥居坂西地区安全安心まちづくり協議会設立

平成20年3月 (2008年3月)
六本木五丁目西地区市街地再開発準備組合設立

令和6年4月 (2024年4月)
都市計画決定
(都市再生特別地区、地区計画、第一種市街地再開発事業)

5 今後のスケジュール (予定)

令和8年度 (2026年度)	地区計画の都市計画変更 (F, G地区)
令和8年度 (2026年度)	再開発組合設立認可
令和9年度 (2027年度)	再開発権利変換計画認可
	再開発工事着工
令和10年度 (2028年度)	F地区工事着工
令和13年度 (2031年度)	F地区しゅん工
令和14年度 (2032年度)	再開発しゅん工

六本木五丁目西地区の街づくりについて

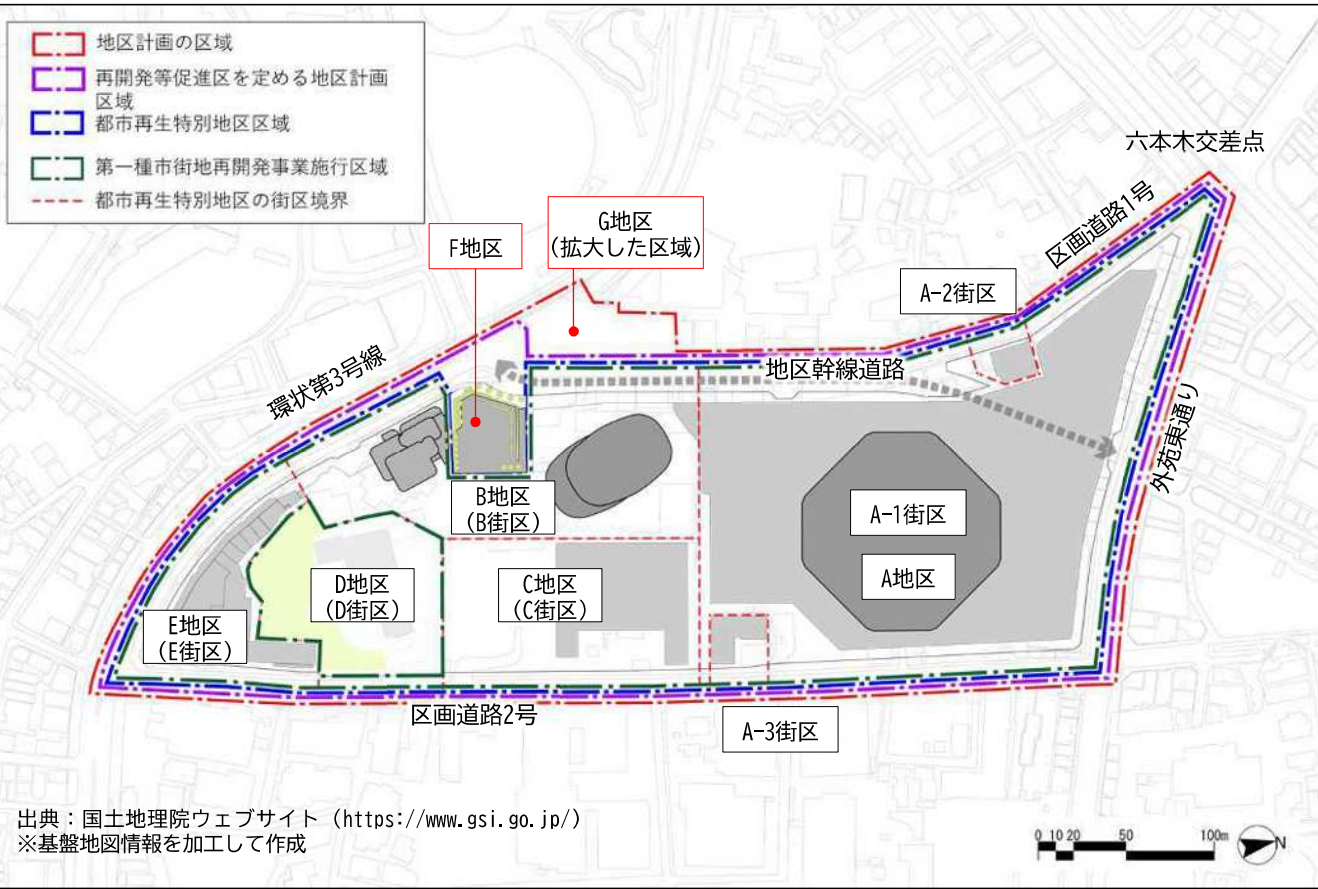
【建築物の概要】

地区別諸元	A地区			B地区 (B街区)	C地区 (C街区)	E地区 (E街区)	F地区
	A-1街区	A-2街区	A-3街区				
建築物の高さの最高限度 (高さの基準点)	327m (T. P. + 25. 0m)	20m (T. P. + 20. 5m)	20m (T. P. + 27. 5m)	288m (T. P. + 22. 0m)	35m (T. P. + 27. 0m)	35m (T. P. + 18. 0m)	GL + 60m (T. P. +15. 5m)
敷地面積	約38, 600㎡	約680㎡	約1, 000㎡	約14, 400㎡	約11, 300㎡	約4, 900㎡	約2, 030㎡
容積率の最高限度	1, 690%	120%	140%	1, 050%	150%	390%	580%
延べ面積 (容積対象面積)	約794, 500㎡ (約649, 300㎡)	約1, 000㎡ (約810㎡)	約1, 400㎡ (約1, 400㎡)	約239, 100㎡ (約149, 900㎡)	約16, 900㎡ (約16, 900㎡)	約29, 200㎡ (約18, 700㎡)	約12, 565㎡ (約11, 670㎡)
主要用途	事務所、ホテル、 店舗、駐車場等	寺院	教会	共同住宅、店舗、 事務所、駐車場等	学校	共同住宅、店舗、 駐車場等	事務所、ホール、 商業等
階数	地上66階、 地下8階	地上3階	地上3階、 地下1階	地上70階、 地下5階	地上6階	地上9階、 地下3階	地上10階、 地下3 階

※A～E地区は市街地再開発事業の都市計画による
※F地区は再開発等促進区を定める地区計画企画提案書による

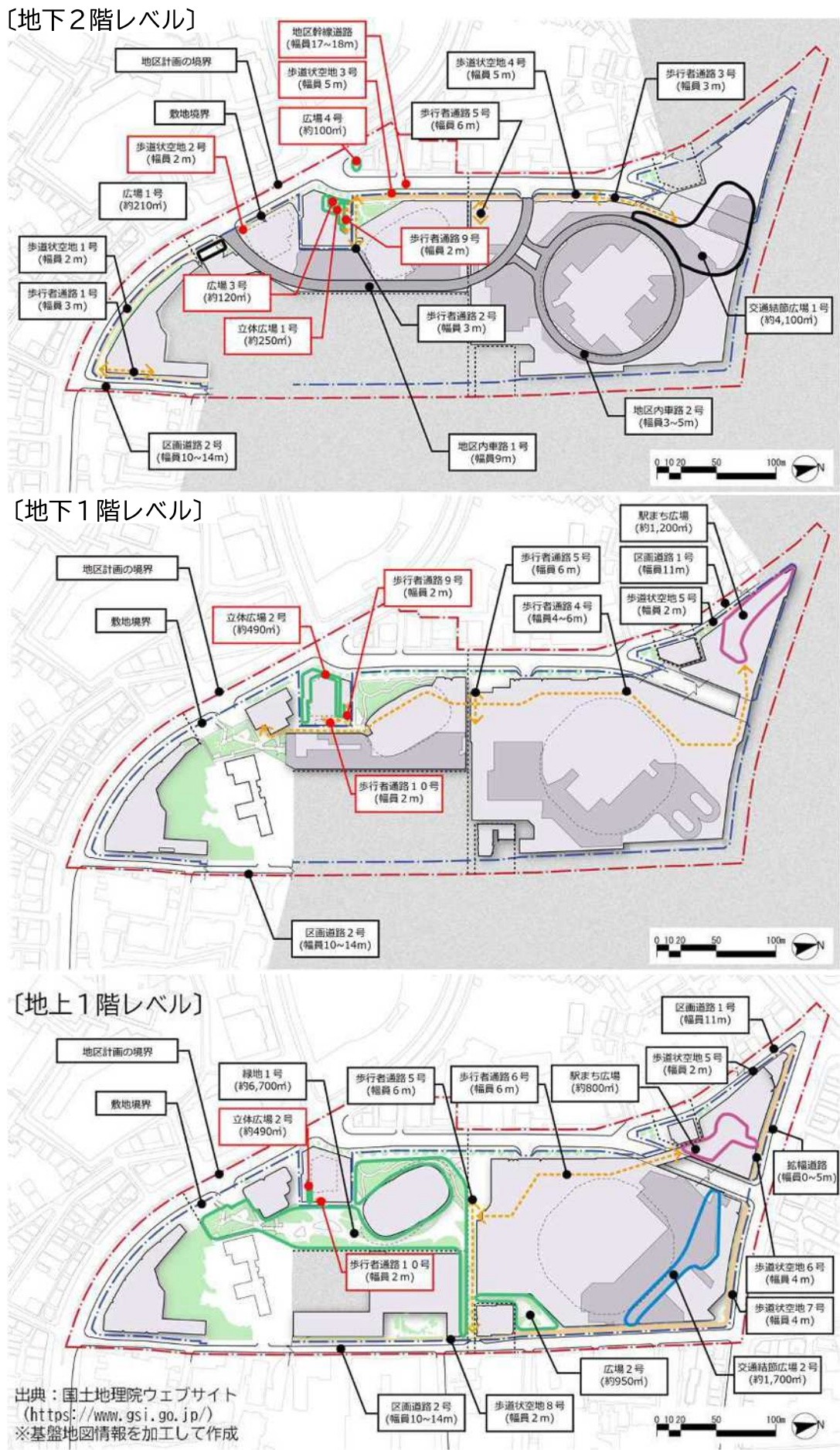
【配置図】

【イメージパース】 F地区南西より



六本木五丁目西地区の街づくりについて

【主な地区施設等の配置】



○主要な公共施設

種 類	名 称	幅 員	延 長	面 積	備 考
道路	拡幅道路	0～5m	約140m	—	新設
	地区幹線道路	17～18m	約340m	—	拡幅・一部新設
その他の公共空地	駅まち広場	—	—	約4,600㎡	新設（昇降施設を含む。）
	交通結節広場1号	—	—	約4,100㎡	新設（昇降施設を含む。）
	交通結節広場2号	—	—	約1,700㎡	新設（昇降施設を含む。）
	地区内車路1号	9m	約270m	—	新設
	地区内車路2号	3～5m	約350m	—	新設

○地区施設

種 類	名 称	幅 員	延 長	面 積	備 考
道路	区画道路1号	11m	約160m	—	既設
	区画道路2号	10～14m	約530m	—	一部拡幅
その他の公共空地	広場1号	—	—	約210㎡	新設（階段を含む。）
	広場2号	—	—	約950㎡	新設
	広場3号	—	—	約120㎡	新設
	広場4号	—	—	約100㎡	新設
	緑地1号	—	—	約6,700㎡	新設（昇降施設、階段を含む。）
	緑地2号	—	—	約10,000㎡	新設（昇降施設、階段を含む。）
	保存緑地	—	—	約2,800㎡	既存
	立体広場1号	—	—	約250㎡	新設（階段を含む。）
	立体広場2号	—	—	約490㎡	新設（階段を含む。）
	歩行者通路1号	3m	約50m	—	新設（昇降施設を含む。）
	歩行者通路2号	3m	約30m	—	新設（昇降施設を含む。）
	歩行者通路3号	3m	約80m	—	新設
	歩行者通路4号	4～6m	約430m	—	新設（昇降施設を含む。）
	歩行者通路5号	6m	約130m	—	新設（昇降施設、階段を含む。）
	歩行者通路6号	6m	約170m	—	新設（昇降施設を含む。）
	歩行者通路7号	6m	約80m	—	新設（昇降施設を含む。）
	歩行者通路8号	6m	約80m	—	新設（昇降施設、階段を含む。）
	歩行者通路9号	2m	約30m	—	新設（昇降施設を含む。）
	歩行者通路10号	2m	約30m	—	新設（昇降施設、階段を含む。）
	歩道状空地1号	2m	約230m	—	新設
	歩道状空地2号	2m	約60m	—	新設
	歩道状空地3号	5m	約140m	—	新設
	歩道状空地4号	5m	約30m	—	新設
	歩道状空地5号	2m	約130m	—	新設
	歩道状空地6号	4m	約110m	—	新設
	歩道状空地7号	4m	約250m	—	新設
	歩道状空地8号	2m	約160m	—	新設

六本木五丁目西地区（F・G地区）の街づくりについて

F地区・G地区におけるまちづくりの目標と取組内容

○ 六本木五丁目西地区のまちづくりの目標

1 新たな拠点を支える都市基盤の整備

2 国際競争力強化に資する都市機能の導入

3 環境への取組と災害対応力強化

開発整備の方針

- ・F地区前面のけやき坂下交差点においては、G地区を区域に加え六本木五丁目西地区における周辺エリアとの結節点としての位置づけ・役割を強化の上、交差点を中心として回遊性、にぎわい、情報発信、文化・エンターテインメントをつなぐ空間整備と機能導入に取り組む。
- ・道路基盤の整備として特別区道第1，104号線を拡幅整備するとともに、歩行者ネットワークを強化する歩道状空地及び駅とまち・まちとまちをつなぐ歩行者通路を再開発と連携して整備する。また、交差点に沿って人の流れを受け止める広場をG地区も含め整備するほか、地形に合わせた立体的な滞留、回遊空間を交差点に向けて整備する。
- ・F・G地区で文化・エンターテインメント機能を導入するとともに、沿道に商業機能を導入することで、地区内外のにぎわいの連続性を強化する結節点を形成する。

道路基盤の整備

交通結節点としての機能強化を図るとともに、円滑な自動車交通を実現する道路ネットワークの形成とゆとりある快適な歩行者空間の整備を行う。

再開発
補助線街路第4号線に沿って拡幅道路を整備

再開発 F地区
特別区道第1，104号線を拡幅延伸
特別区道第849号線への通過交通の低減や六本木交差点の交通混雑を改善するため、補助線街路4号線と環状3号線をつなぐ新たな道路ネットワークとして特別区道第1，104号線を拡幅し、一部新設整備

再開発
特別区道第849号線を一部拡幅整備

歩行者ネットワークの整備

高低差のある地形によるバリアを解消し、地区内外の回遊性や快適性を向上させる重層的な歩行者ネットワークを形成する。

再開発 F地区
歩道状空地の整備
安全で快適な歩行者空間を実現し、沿道のにぎわい形成にも寄与

再開発
東西ネットワークの形成

再開発 F地区
歩行者ネットワークの整備
駅とまち、まちとまちをつなぐ安全で快適な歩行者ネットワーク形成

F地区
歩行者ネットワークの補完
主要な動線レベルをつなぎ歩行者の利便性を向上する動線整備

オープンスペースの整備

高低差のある地形及び周辺市街地とのつながりに配慮した、多様なオープンスペースを整備する。

再開発
駅まち広場の整備

再開発
緑地の整備

再開発 F地区 G地区
結節点における広場・滞留空間の整備
交差点や周辺市街地との結節点には人の流れを受け止める広場や滞留空間を整備

F地区 G地区
文化・情報発信と地区内外の連携強化
文化・情報発信を行うとともに、周辺地区との結節性を強化する道路空間等と連続した広場・オープンスペース整備

F地区
まちを望む広場の整備
地区内のにぎわい表出を図るため、立体広場整備を通じてまちを望む歩行者のための空間を整備

都市機能の導入

国際色豊かな地域特性を生かした魅力ある複合市街地を形成。隣接する複合開発と連携の上、地区内外のにぎわいの連続性を強化する結節点を形成し魅力と活力あふれるまちづくりを推進。

再開発
宿泊機能等の整備

再開発
国際水準の居住機能

再開発 F地区 G地区
文化・交流（MICE）機能の整備
六本木の特性を生かした文化・交流（MICE）機能等の整備
周辺エリアや複合開発をつなぎ、文化の結節点を形成

F地区 G地区
沿道の商業機能の整備
連続した沿道の商業機能等によりエリアを超えてにぎわいの連なる市街地を形成

※円は文化・交流機能を示す

○ 再開発と連動したF・G地区のコンセプト

1 新たな拠点を支え地域をつなぐ都市基盤

再開発と連携した駅とまち、まちとまちをつなぐ動線整備
駅まち一体まちづくりに寄与する歩行者ネットワークを再開発と連動して整備

再開発と連動した歩行空間整備
再開発側と連携した道路沿いの歩行空間整備と連携し、交差点空間において結節点となるオープンスペースを整備

再開発と一体となった道路ネットワーク再編
再開発と連携し芋洗坂を拡幅整備

2 再開発と連動し地域を生かす都市機能

多彩な文化をつなぐまちづくり
国際色豊かな地域特性を生かした魅力ある複合市街地を形成し、隣接する複合開発と連携の上、文化の結節点としてのまちのにぎわいを創出

地形を生かした、立体的なにぎわいの創出
起伏に富んだ地形を生かし、まちのにぎわいを立体的に展開する空間を維持・創出し地域の魅力を向上

麻布十番方面とにぎわいが連続するまちづくり
麻布十番方面から連続した沿道の商業機能等により、エリアを超えてにぎわいが連なる市街地を形成

3 環境への取組と災害対応力強化

「都心の森」との連携
再開発と連続した広場、歩道状空地、壁面などの緑化空間を建物全体で形成し、交差点に向けて地形を生かした立体的な緑を表出

再開発と連携した地域の災害対応力強化
再開発と連携し崖面の安全性向上を図るとともに、エリアマネジメントの中で放送局の特性を生かし地域の災害対応力を強化

ライフサイクルを通じての環境負荷低減に向けた取組
建設段階から運用段階まで、ライフサイクルを通じて環境負荷低減に取り組む。

交差点のにぎわい創出に資する空間・機能の導入

多彩な文化をつなぐまちづくり
低層部に商業、文化及び情報発信機能等を配置し、F地区とともに文化、情報の結節点を形成

エリアのにぎわいをつなぐオープンスペースの整備
低層部を中心に芋洗坂のにぎわいをけやき坂・麻布十番方面へとつなぎ、魅力ある街角とストリートのにぎわいを創出

立体的なにぎわいの創出
F地区の広場等とともに交差点沿いにオープンスペースを整備し、地形を生かしたにぎわいとさらなる発信力を生む場を創出

○ F・G地区を中心とした交差点のまちづくり目標

国際文化都心の形成に資する、交差点を中心としたまち・人・文化をつなぐ結節点

地区のゲートとなる芋洗坂下の交差点の四つ角をつなぎ、玄関口の交差点として一体的なまちづくりを展開

▶**動線**をつなぐ：地形に対応した立体的な結節点形成と回遊性向上

- ・六本木～麻布十番方面の回遊性向上に資する歩行空間整備
- ・オープンスペースも活用したウォーカブルな環境構築による回遊性向上
- ・谷地に対する段差解消と、立体的ににぎわいを連続させ、地形を越えて地区間のにぎわい連携を促進

▶**情報**をつなぐ：双方向性のある情報コミュニケーション

- ・人々が交わりアクティビティが集積する交差点を活用した訴求力のある情報発信
- ・エリアの玄関口としての、六本木エリア全体の情報集積とにぎわい誘導
- ・先端的なデジタル技術も活用した、場を活かした双方向的情報コミュニケーションの推進

▶**文化**をつなぐ：六本木を代表する文化・エンタメ集積と連携強化

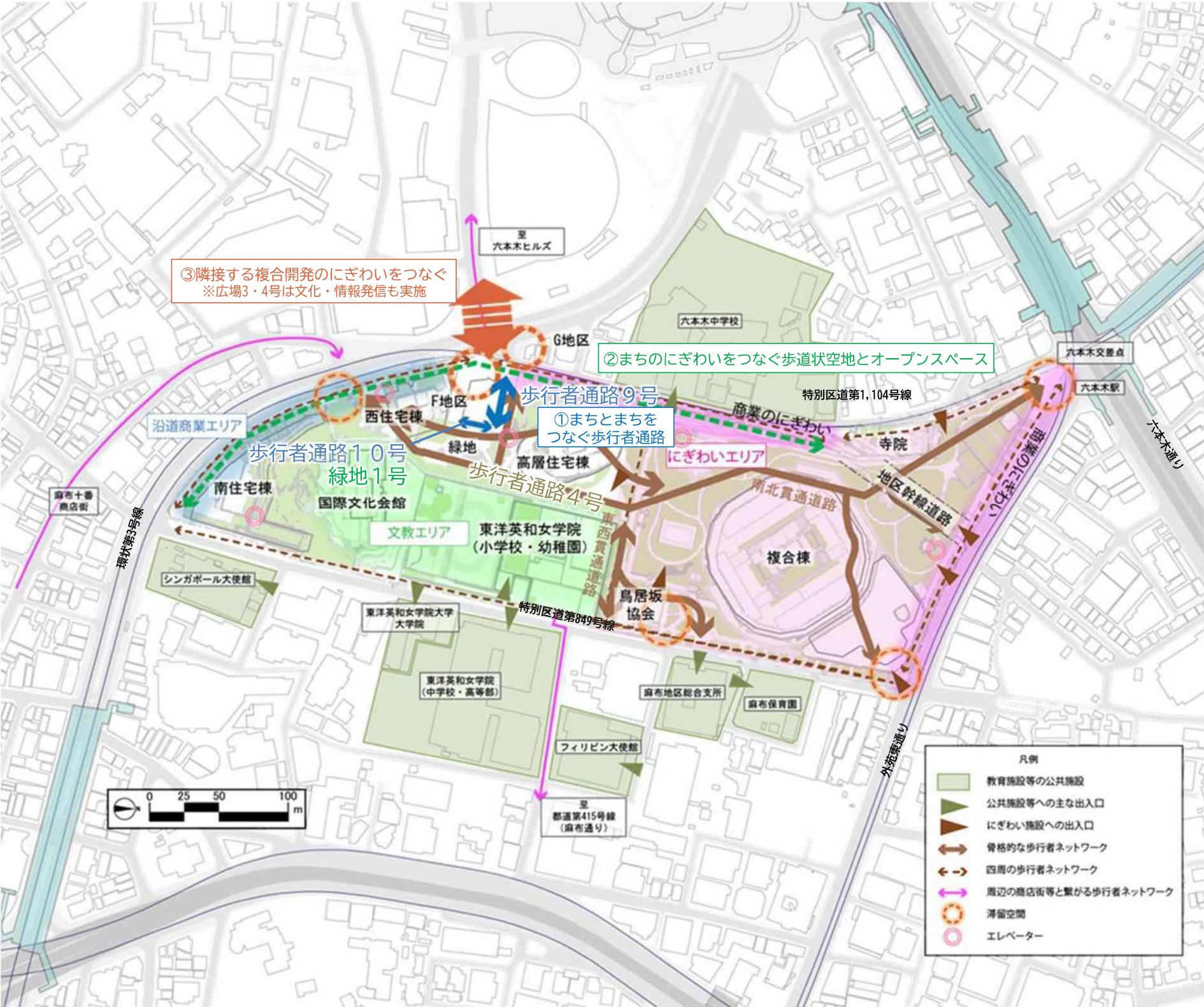
- ・芋洗坂下の交差点に、文化・エンタメ機能の集積により核を形成
- ・MICE施設の機能連携・機能向上を図り、アフターMICEにも対応することでナイトタイムエコノミーの活性化に寄与
- ・隣接する複合開発と連携を強化、発信し、文化や価値の向上に寄与

六本木五丁目西地区（F・G地区）の街づくりについて

1 新たな拠点を支え地域をつなぐ都市基盤

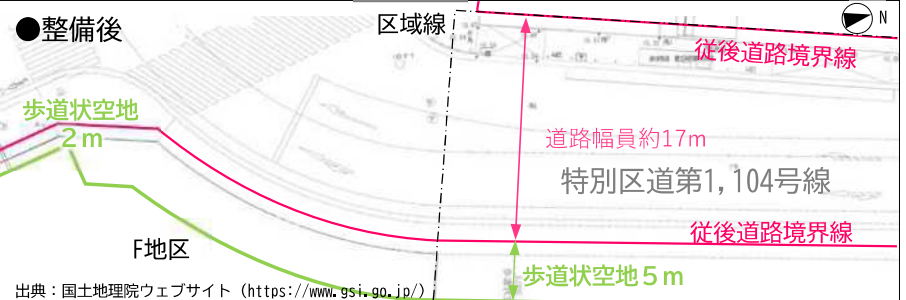
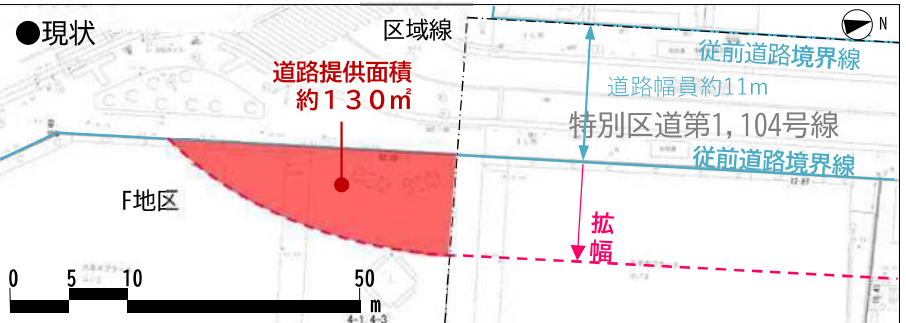
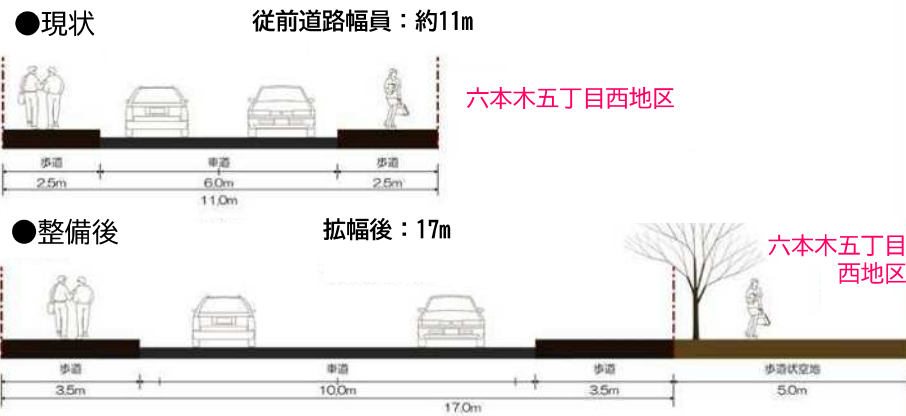
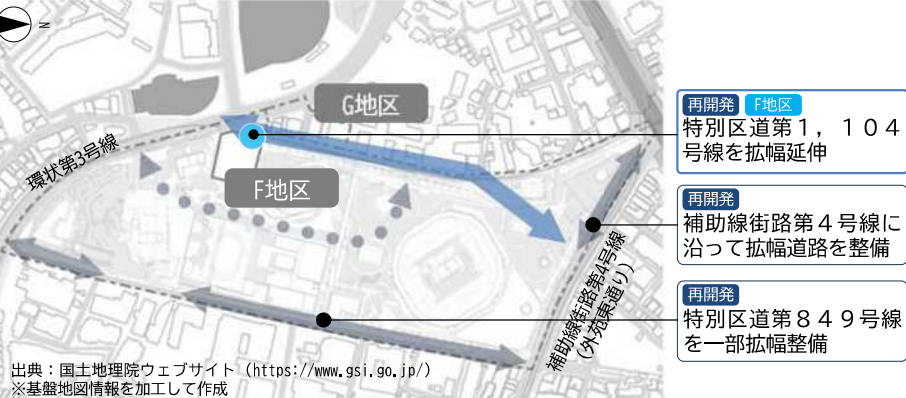
再開発と連携した駅とまち、まちとまちをつなぐ動線整備

- 駅まち広場につながる歩行者通路4号と交差点とを接続し、地区内外の移動を支える骨格的なネットワーク動線として歩行者通路9号（幅員2m、延長約30m）を整備します。
- 歩行者通路4号及び緑地1号の位置する地区内主要レベルへの接続性を補完し、地区内移動の利便性を高める動線として歩行者通路10号（幅員2m、延長約30m）を整備します。



再開発と一体となった道路ネットワーク再編

- 外苑東通りと環状第3号線をつなぐ新たな道路ネットワークを形成し、学校や大使館が面する特別区道第849号線へ通過交通の低減を図るため、特別区道第1,104号線を拡幅延伸し、地区幹線道路（幅員17～18m、延長約340m※）を整備します。※延長は地区全体での総延長
- F地区では、当該整備に伴い、開発区域内のうち約130㎡を道路拡幅用地として整備の上、道路管理者へ移管します。

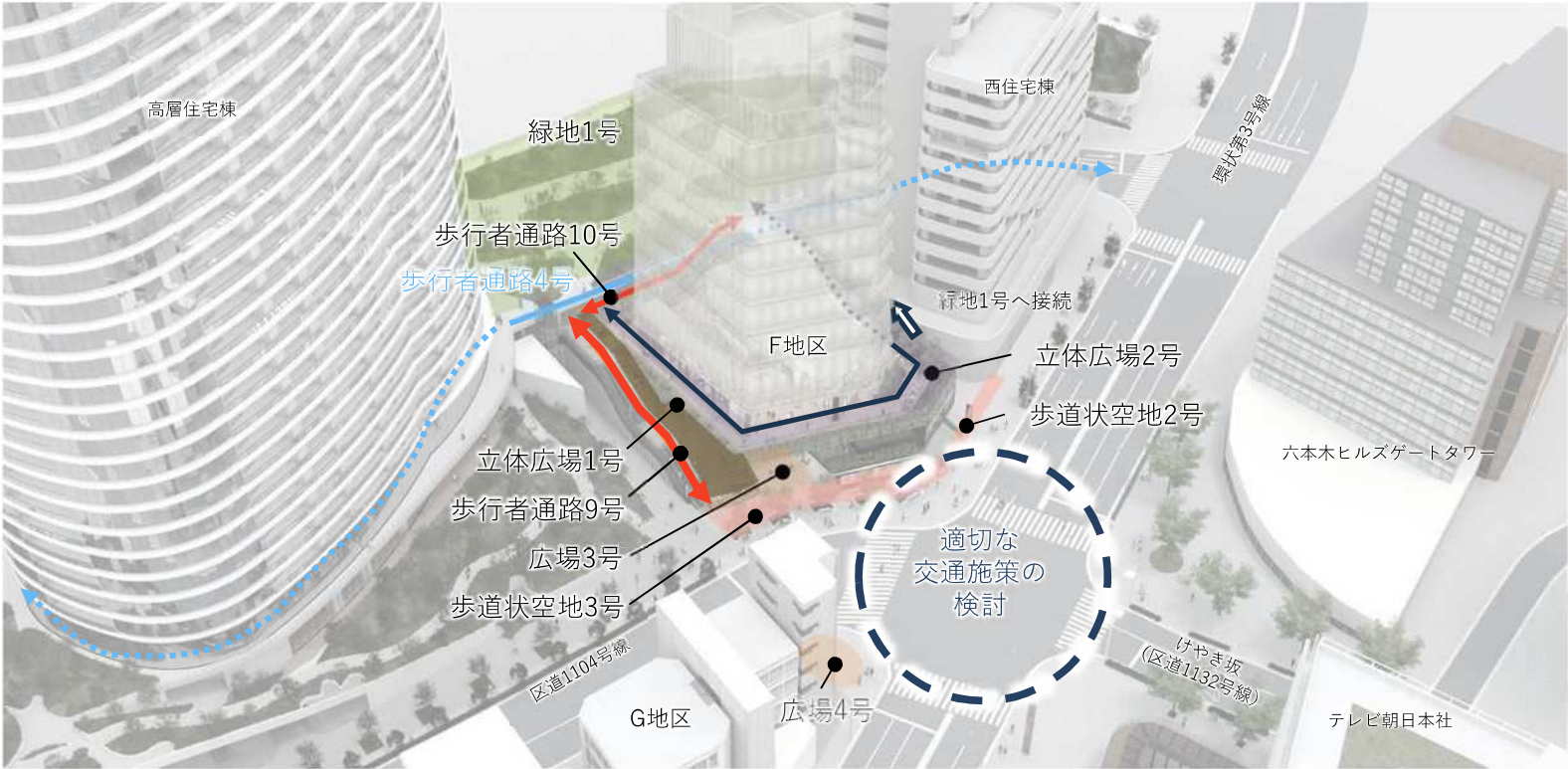


六本木五丁目西地区（F・G地区）の街づくりについて

1 新たな拠点を支え地域をつなぐ都市基盤

再開発と連動した歩行空間整備

- 地区全体の計画に合わせ、芋洗坂沿い及び環状第3号線沿いに、それぞれ歩道状空地3号（幅員5m、延長約140m※）および歩道状空地2号（幅員2m、延長約60m※）を整備します。
※延長は地区全体での総延長
- 交差点、歩道との連続性をもった空間とし、地区の玄関口としてデジタル技術を活用した情報を発信しながら、人の流れを受け止める広場3号（面積約120㎡）やF地区オープンスペースと対応する広場4号（約100㎡）を整備します。



地上部広場（広場3号）の役割

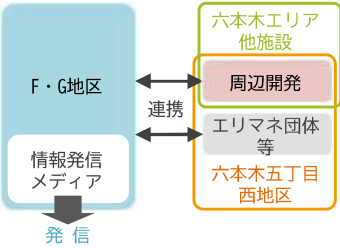
- 交差点・歩道状空地に面した開かれた地上レベルのオープンスペース
- 地形も含めて再開発と一体性をもった広場を、交差点から芋洗坂への受け空間として、段差を繋ぐ動線と連動して整備
 - 街角の余白空間となる歩行者の自由な「立ち寄り」を受け入れるオープンスペースとして広場約120㎡を、「高低差をつなぐ歩行者通路+立体広場」の足もと空間として地上部に整備
 - ホール待機スペース、ホール・店舗への動線等の建物内機能及び有効空地とは切り分けることにより、まちに対して開かれた空間として公共性を確保
 - 情報発信メディアについては技術の進展に合わせて導入・アップデート、また地域イベントや社会実験等の対応も考慮し固定的な工作物等は最低限としフレキシビリティを確保

広場4号の役割

- 広場4号は、交差点に沿ったゆとりのある滞留空間であるとともに、G地区に導入する文化・交流・エンターテインメント機能と連携したにぎわい空間として、道路空間と連続して設ける
- 機能面では、デジタル技術やコンテンツ等を活用した文化・交流・エンターテインメント機能を導入し、多目的ホールによる文化・情報発信を行うF地区と連携しながら、まち・交差点のにぎわい形成を強化

地区の玄関口としての情報発信機能

- 多くの人が通行し、また信号待ちで立ち止まる空間である交差点に近接して、情報発信メディアを設置
- 地区の玄関口としてMICE等の地区内情報を発信（多言語対応等も検討）：六本木五丁目西地区内にいざなう情報発信
- 情報発信メディアと周辺との機能連携（ホール）により、エリア全体の地域情報を発信：六本木六丁目地区方面に誘導する情報発信

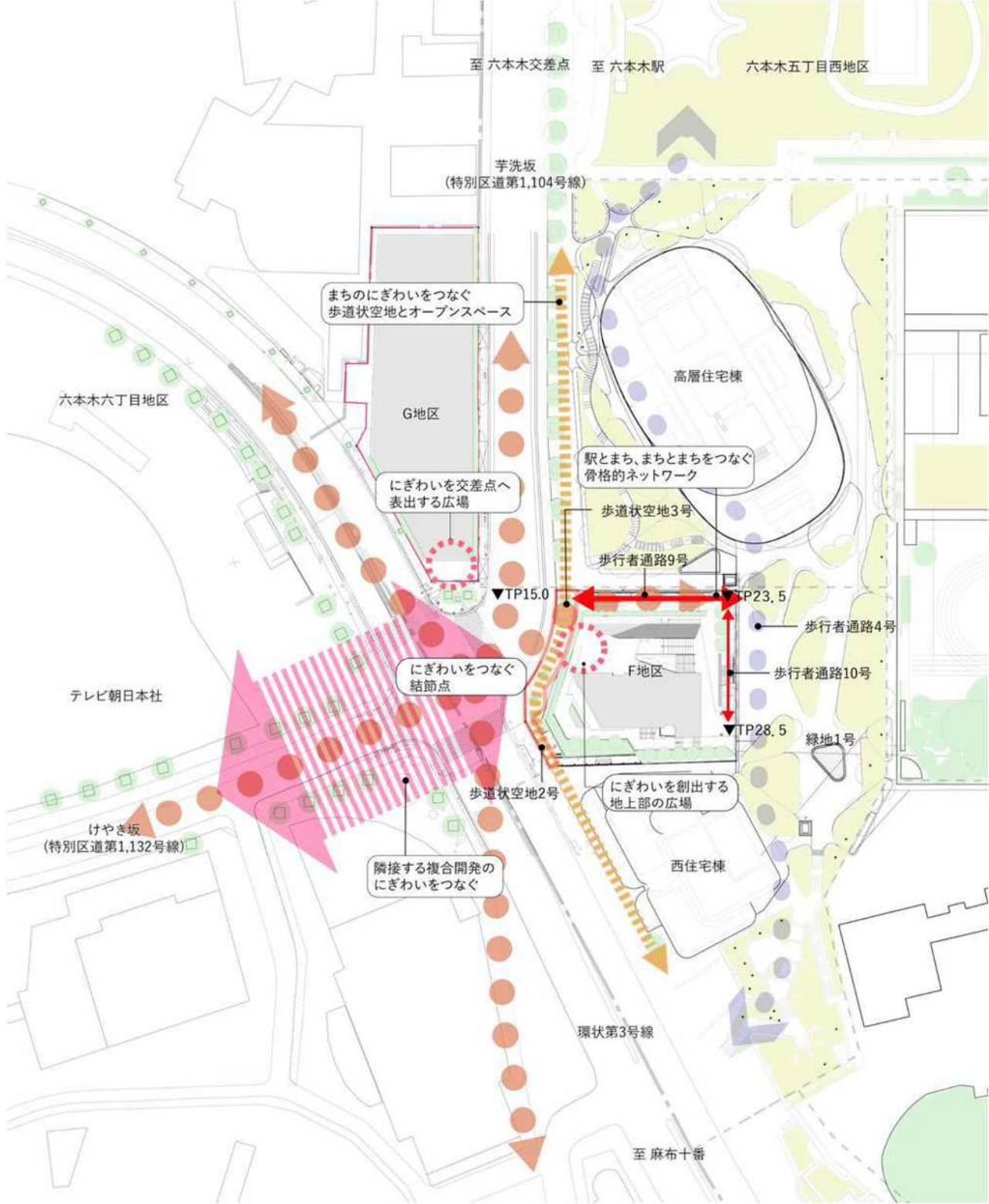


交差点への発信力を生かした災害対応機能

- テレビ局の制作力を生かし事前防災に繋がる避難場所・経路の周知等、平時の防災情報発信（啓蒙）
- 災害時の一時待機場所として歩行者を受け入れる、オープンな広場空間

テレビ局の特性を活かした更なる取組

- 実空間や放送と連動したメタバースへの取り組みなど、リアルな場×技術×放送で先端的なまちづくりを発信

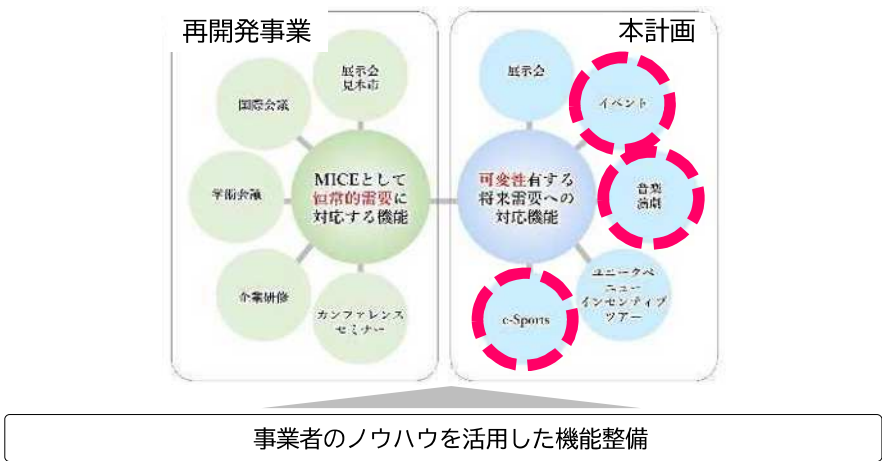


六本木五丁目西地区（F・G地区）の街づくりについて

2 再開発と連動し地域を生かす都市機能

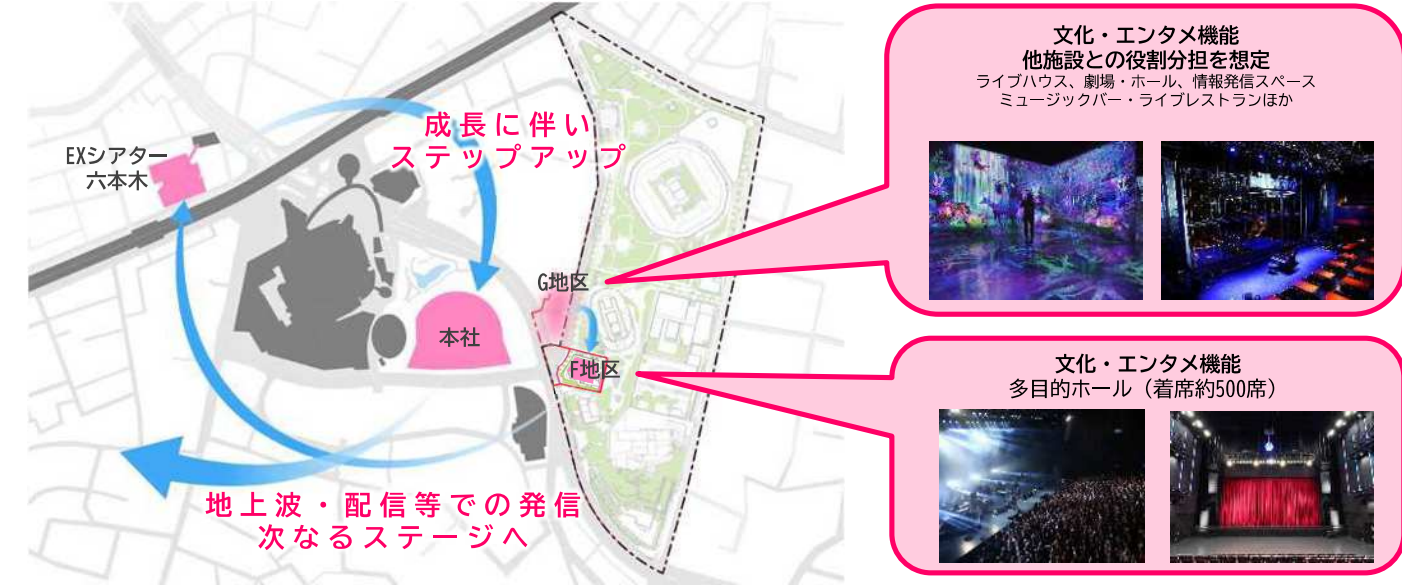
- 多彩な文化をつなぐまちづくり
- 六本木エリア一円の多様な劇場機能の集積上に、文化芸術・エンターテインメント機能と情報発信機能として多目的ホールを整備します。
 - 六本木を代表する文化・エンターテインメント機能の集積を図るとともに、交差点の情報発信やナイトタイムエコノミー等の観光促進に寄与します。

再開発事業とF地区との役割分担の考え方

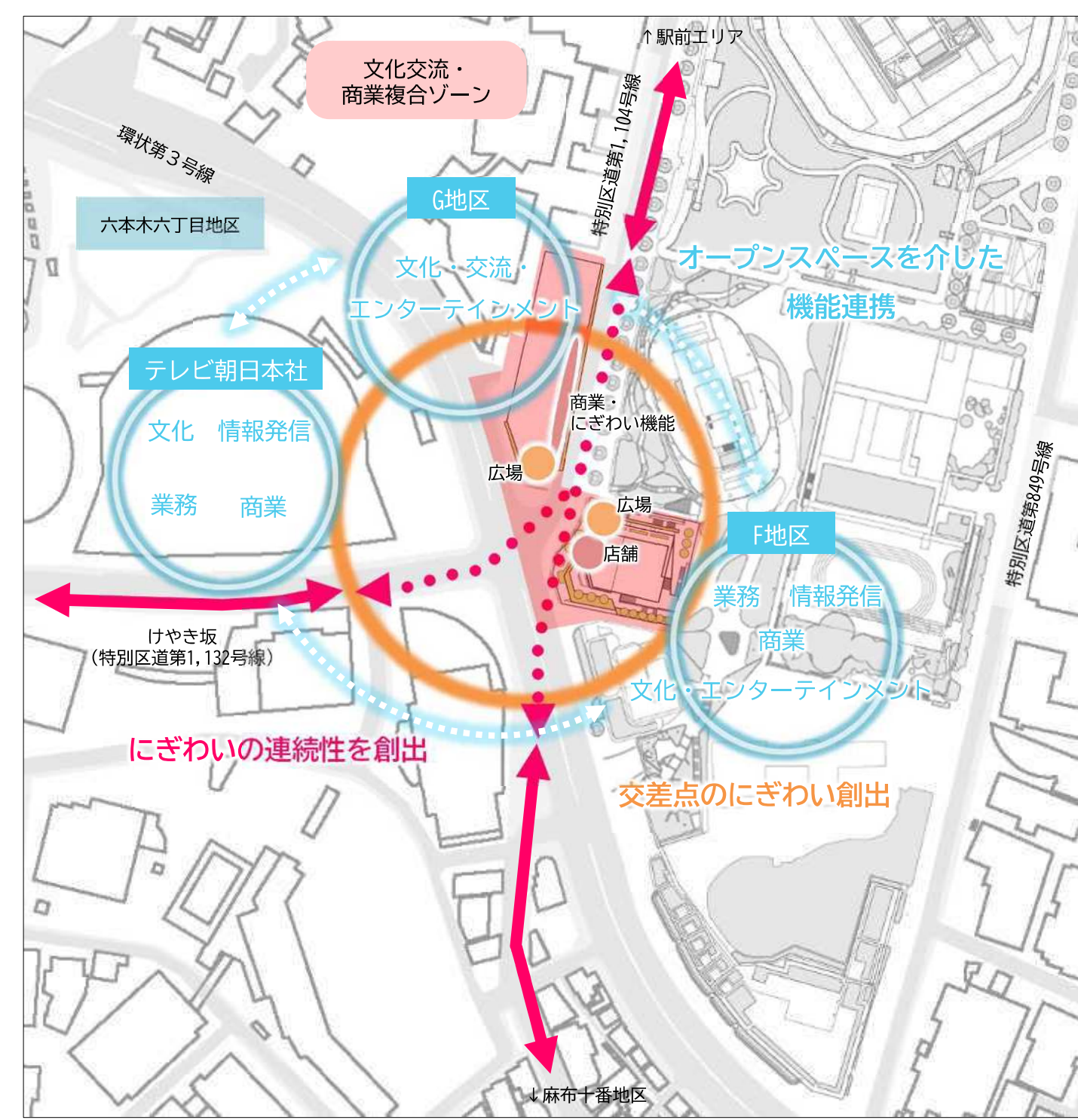


	施設名	収容人数(人)	MICEとしての恒常的需要への 対応機能					可変性有する将来需要への 対応機能				
			展示会 見本市	国際 会議	学術 会議	企業 研修	カンファ レンス	発表会	イベ ント	音楽・ 演劇	エーカ* ニュー/ イネシアティブ	e- Sports
地区内 新規整備 施設	多目的ホール(大)	約2,000	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
	カンファレンス			○	○		◎	○	○	○	○	
	多目的ホール(小)	約1,000-1,200						○	○	○	○	○
	多目的ホール(小)	約500(着席時)						○	◎	◎	○	◎
近隣 既存施設	六本木アカデミーヒルズ タワーホール	500	○	◎	○	○	○	○	○			
	六本木アカデミーヒルズ ライブラリーカフェ	300					○	○	○			
	東京ミッドタウン ホールA	816	◎	◎	○	○	◎	○	○			
	ザ・リッツカールトン											
	グランドボールルーム	500		○	○		○	○	○		○	
	ビルボードライブ東京	300						○	○	◎		
	EX THEATER ROPPONGI	920(着席時)						○	○	◎		

六本木を舞台にアーティスト発掘・育成のサイクルを形成



- 麻布十番方面とにぎわいが連続するまちづくり
- 地上部の広場と店舗、立体的なにぎわい空間の連なりによって沿道のにぎわいをつなぎ、芋洗坂からけやき坂・麻布十番方面へにぎわいの連続性を確保します。
 - なお、G地区は、文化・交流・エンターテインメント機能を導入するとともに、それらの機能と連携したにぎわい空間として道路空間等と連続した広場を設け、F地区と連携し交差点のにぎわいを創出、六本木六丁目地区と六本木五丁目西地区での一体的なにぎわい形成に寄与するとともに、特別区道第1,104号線と麻布十番地区のにぎわいの連続性を強化します。



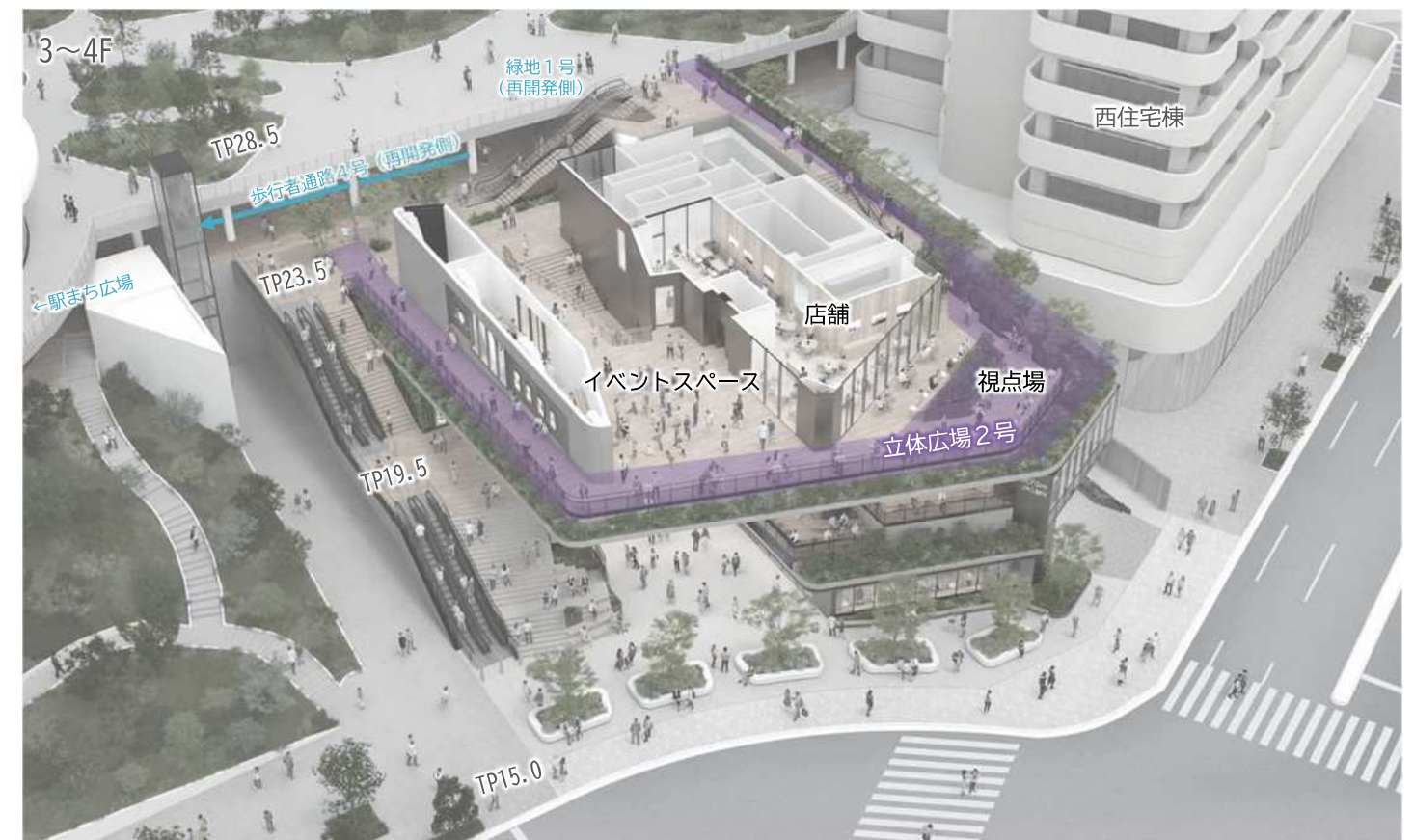
出典：国土地理院ウェブサイト (<https://www.gsi.go.jp/>)
※基盤地図情報を加工して作成

六本木五丁目西地区（F・G地区）の街づくりについて

2 再開発と連動し地域を生かす都市機能（F地区）

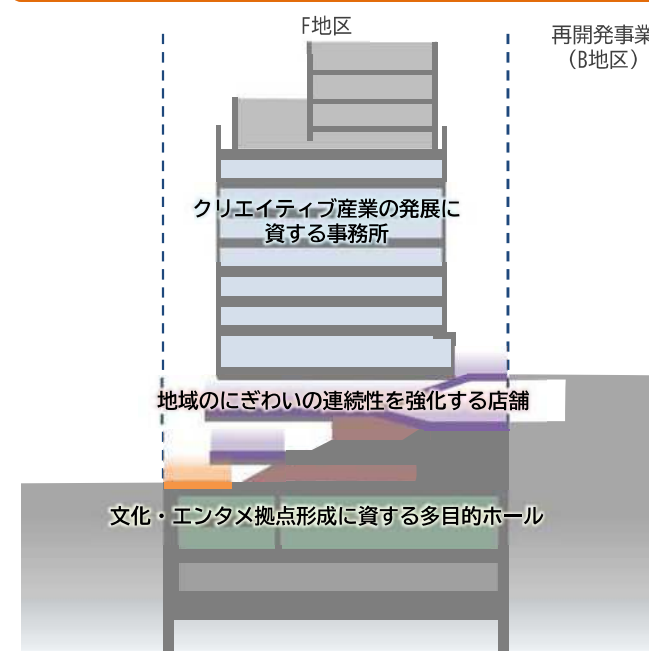
地形を生かした、立体的なにぎわいの創出

- ・地上部から連続的に連なり、交差点を臨む滞留の空間としてにぎわいを立体的に展開、地上部広場と一体で地区の玄関口としての顔となる立体広場1号（面積約250㎡）を整備します。
- ・緑化とともに交差点へにぎわいを表出し回遊性を高める、地区内主要レベル（歩行者通路4号・緑地1号）とつながったけやき坂や交差点への視点場となる立体広場2号（面積約490㎡）を整備し、隣接するイベントスペース、店舗との相乗効果を図ります。



F地区導入用途

F地区南西からみた広場のイメージ



立体広場2号からけやき坂を望む

六本木五丁目西地区（F・G地区）の街づくりについて

3 環境への取組と災害対応力強化

「都心の森」との連携

- 地区内の屋上庭園（緑地1号）に連続した緑を設け、六本木六丁目、麻布十番方面に向け表出する立体広場2号を整備します。
- テラス及び壁面の緑化による、芋洗坂、けやき坂および環状第3号線の交差点に向けた立体的な緑の景観を形成します。

再開発と連携した地域の災害対応力強化

- 土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）に指定されている急斜面地を解消するとともに、エリアマネジメントの中で放送局の特性を生かした地域の災害対応力を強化します。

災害対応力強化に向けた地区施設の役割

地区施設	役割
広場3号（約120㎡）	●交差点滞留者等への災害情報発信 ●一時避難スペース（通行者等）
立体広場1号（約250㎡）	●一時避難スペース（来街者・施設利用者等）
立体広場2号（約490㎡）	●一時避難スペース（来街者・歩行者通路4号通行者等）

斜面地の安全対策

- 計画建築物の施工により土砂を受け止める建築物の擁壁を整備
- 土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）に指定されている急斜面地を解消

その他の取組み

- ホール等約950㎡（収容想定人員約576名※）を、災害時に一時滞在施設として開放
- 収容想定人員数の3日分に対応した水、食糧等を備蓄するための倉庫（14.5㎡）を整備
- 防災訓練等における地区全体の連携

参考：六本木ヒルズ防災訓練（2014）

※定住促進指導要綱等に基づいて協議の上、適切な規模を確保
※施設の運用にあたっては港区と協定書を締結予定

ライフサイクルを通じての環境負荷低減に向けた取組

- 建設段階から運用段階まで、ライフサイクルを通じて環境負荷低減に取り組みます。

1 設計・資材製造・建設段階

建物の省エネルギービル化の推進

- 高効率な空調機器の採用
- 日射遮蔽、日射熱取得削減
- 外皮性能の確保（Low-Eガラス等）
- 外気導入（自然換気・ナイトパーージ等）

ヒートアイランド現象の抑制

- 沿道緑化
- 壁面緑化
- 建物ファサード・屋上の積極的な緑化

水資源の有効活用

- 節水型器具の採用
- 中水利用の検討

省CO2資材の調達等の環境負荷低減

その他

- 積極的な木材利用による炭素固定の検討
- 長寿命対応の機器採用
- 生物多様性に配慮した植栽計画

建設施工時のCO2排出削減

2 建物運用段階

運用時の省エネルギー化の取組

- 施設全体のエネルギー利用の最適化
- 昼光利用
- センサー連動の機器制御
- 空調温度の適正運用

電気の再エネ化率の誘導水準達成の方法

- 小売電気事業者からの供給や再エネ証書の購入を含め幅広く検討

再生可能エネルギーの導入等

- 太陽光発電の導入
- グリーン電力の導入（カーボンオフセット）

メディアとしての更なる発信（取組中）

- SDGメディア・コンパクトに署名、グループ保有のメディアによる普及・啓発活動
- 国連「1.5℃の約束」キャンペーンへの参加

3 改修・解体・廃棄段階

- 長需要対応の材料/機器の採用・適切な改修による建物寿命の延長

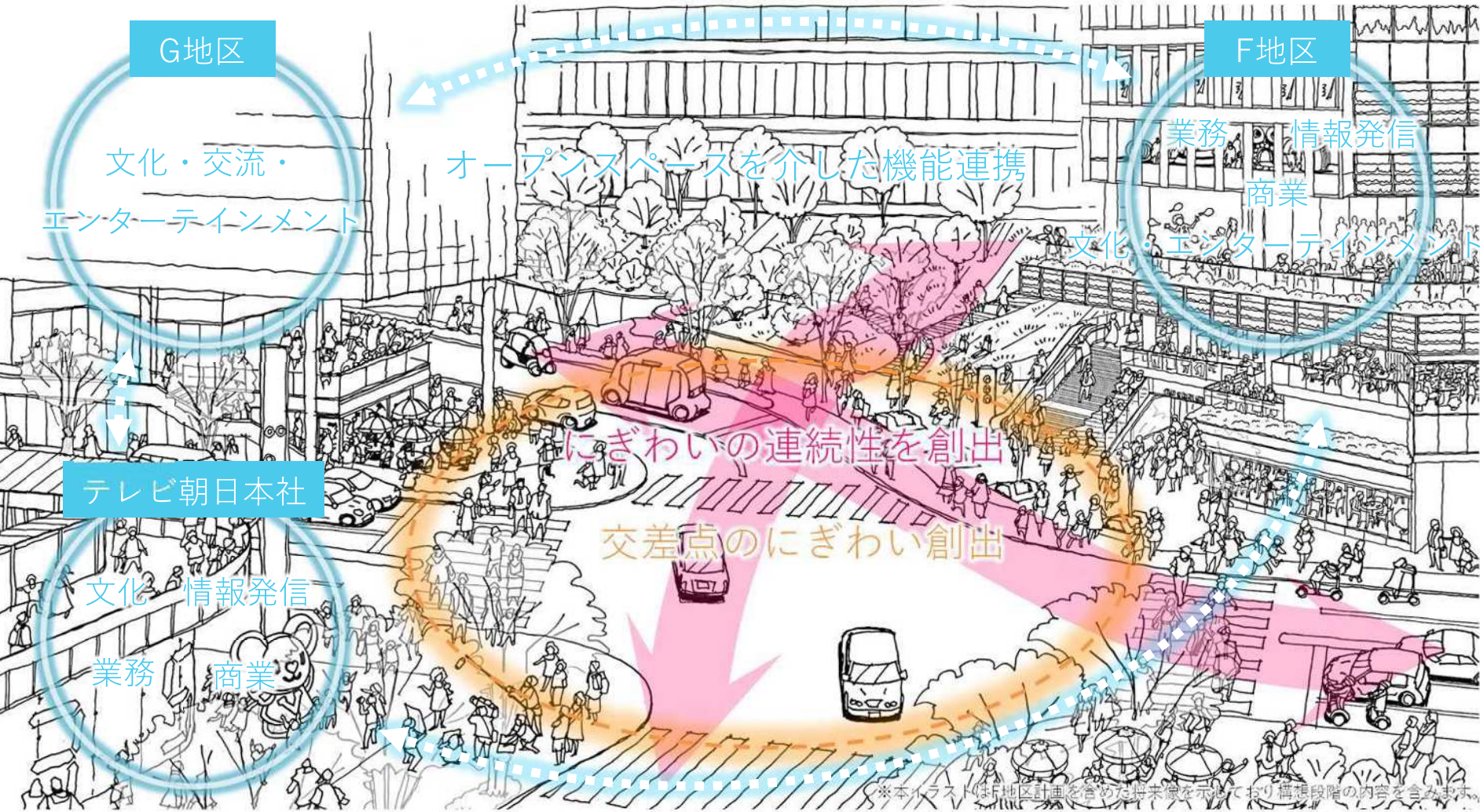
六本木五丁目西地区（F・G地区）の街づくりについて

交差点のにぎわい創出に資する空間・機能の導入

多彩な文化をつなぐまちづくり

- G地区では交差点のにぎわい創出に資する文化・交流・エンターテインメント機能を導入し、また商業機能等をオープンスペースと連携し配置することで、交差点のにぎわいの創出を図ります。
- また、F地区とも連携し情報発信を行うことで、六本木エリアの文化芸術・エンターテインメント機能を強化し、特別区道第1，104号線から麻布十番方面への文化とにぎわいの連続性の強化を図ります。

けやき坂方向から交差点を見たイメージ



G地区導入用途のイメージ

文化・エンタメ機能
他施設との役割分担を想定
ライブハウス、劇場・ホール、情報発信スペース
ミュージックバー・ライブレストランほか



エリアのにぎわいをつなぐオープンスペースの整備

- G地区では道路空間等と連続した広場4号を設け、F地区と一体的に交差点沿いの玄関口として顔づくりを行うことで、六本木五丁目西地区と六本木六丁目地区、特別区道第1，104号線と麻布十番商店街を結び付けるにぎわいの連続性を強化します。

交差点周辺のオープンスペースを介した
「機能連携」に向けた取組み

非日常時のイベント連携想定イメージ：六本木夏祭り

F地区	G地区	本社	ゲートタワー	5丁目西地区 6丁目地区全域
EXシアターとも連携した同時開催イベントや立体広場・テラス活用	広場でのステージや地上部商業を活用したマーケット等	アトリウムでの展示・EXけやき坂スタジオでの公開収録等	書店での企画展やデジタル連携、パンフレット販売等	オープンスペースを活用した屋外ステージ等

交差点沿い空間の連携と調和した景観づくり、
個性ある街角づくり

- ① 交差点沿いの外部空間デザインの調和
- ② 象徴性のある光による夜間景観の演出
- ③ アートを通じた個性ある街角づくり

立体的なにぎわいの創出

- G地区では広場4号を設け、F地区の広場等とともに、視点場からの交差点との見る・見られるなど立体的に対応する関係性を創出し、交差点沿いのオープンスペースを中心としたまちづくりを強化します。また、F地区同様、情報発信を行いながら、人の流れを受け止める機能も担います。

